

第60回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和5年2月13日（月）午前9時56分から午前10時56分まで

2 場 所

愛知県自治センター 5階 第五会議室

3 出席者

委員 4人

説明のために出席した者 3人

4 傍聴者

0名

5 議 題

(1) 委員長選任について

(2) 愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間の業務実績見込み評価実施要領の制定について

6 議事概要

【委員長選任について】

○ 委員の互選により、岡田委員が委員長に選任された。

【愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間の業実績見込み評価実施要領の制定について】

○ 原案について「意見なし」とした。

(1) 委員長選任について

○ 事務局

それでは、議題(1)の「委員長選任について」に入らせていただきます。参考1「愛知県公立大学法人評価委員会条例」をご覧ください。

委員長の選出は、条例第4条の規定により、委員の互選により定めることとなっております。委員の皆様、どなたか御推薦をお願いします。

○ 委員

岡田委員に委員長をお願いしたいと思います。

○ 委員

岡田委員には誠に多忙なところ恐縮ではございますが、これまでの委員長としての御手腕、御実績を鑑みますと、是非ともお願いしたいと存じます。

○ 事務局

岡田委員を推薦するとの御意見がありました、いかがでしょうか。

(異議なし)

○ 事務局

それでは、委員の皆様の互選により、岡田委員が委員長に選出されました。

(2) 愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間の業実績見込み評価実施要領の制定について

○ 委員

要領に盛り込む必要があるかどうかは迷うところではあるのですが、特に芸術大学は、例えば科研費の採択という指標がそぐわないということもあると思うので、その分野で独自の基準を用いることも可能であるとか、そういったような文言を入れてもいいのかなと思います。

もちろんこれは実施要領ではなくて、実績報告の作成の際のガイドのようなものに記載してもよいと思います。

○ 委員

ご意見ありがとうございます。

評価項目については、今回第三期の途中ですので、第三期の冒頭で定めた項目

自体は変えられないと思います。今回の要領は一種の中間評価のようなものだと思います。

この評価委員会でも評価指標の問題はたびたび出ていて、今、委員からご指摘いただいたように、芸術分野での活動はなかなか数値化できない、というご指摘も法人側からいただいていたと思います。

今の委員からの御意見は、何とか救済するというか、難しいところではあるけれども、できるだけ業績をうまく評価できるように出来たらというありがたい御意見だったと思います。指標自体をこれから新たに盛り込むことができないので、指標をどうするかを検討するのは難しいと思います。事務局から何かご意見はございますか。

○ 事務局

次期の計画を立てるときに反映させていただくのがよろしいかと思えます。いかがでしょうか。

○ 委員

この20年間で東京、大阪、いずれも変化が大きくなされておりますので、私としては、芸大側からぜひアピールできる材料を発掘していただければいいのではないかと思います。

五芸大の中でも愛知県立芸大はここが優れているというのを積極的にマイニングしてもらおう。

今回中間評価なので変更は良くないというのは了解しております。またこれまでも、ぜひ独自のアピールポイントを出してもらえればということは申しましたので、口頭や注意書きのような形でお伝えいただければありがたいと存じます。

○ 委員

ありがとうございます。ぜひ事務局から県芸大に次回の評価結果を出すときに、できるだけ今の委員のありがたいお話を踏まえまして、アピールポイントを強調して、評価項目に引き付けるような形で記述していただきたいとお伝えいただきたいと思えます。

○ 事務局

承知いたしました。

○ 委員

少しお聞きしようと思っていたことがあったのですが、今の議論でだいぶ納得しました。

各大学のアピールポイントが「重点的計画」になっているわけではないのですか。各大学の理念に沿っていることが評価のポイントとなるようになっているのかなというふうに見ていたのですが、そういうことではないのでしょうか。

○ 委員

先程申しましたように、私は8年間委員を務めさせていただいておりますが、我々委員会側がフィードバックしていることを法人側も非常に真摯に受け止めてくださって、いろいろな点で業務が改善されてきたと考えております。他の委員の御意見も伺いたいところですが、すけれども。

重点的計画は第三期中期目標・中期計画期間から導入されたものでして、法人側が、各大学が「ここは強調したい」、「ここを重点的に頑張って取り組む」というものを、要領に書かれていますように配点を2倍にするもので、そこを別紙の一番最後のページに書かれているように、ウエイトが変わるようになっています。そのため重点的計画を達成した場合には特にポイントが高くなるような仕組みになっています。

○ 委員

ありがとうございます。例えば芸術大学と名古屋工業大学の連携事業で芸術大学の学生さんが名工大に来て、壁に絵を描いたりモニュメントを作ったりされていたのですが、学長曰く、それを見てふと我に返って新しいアイデアを思いついたりするのだと。

例えば作品展で何か賞をもらいましたというのではなくて、地元への貢献というものを上手に評価できるようにできるとよいと思います。

○ 委員

ありがとうございます。私が法人の代弁をするわけではないのですが、県大も県芸大も、県への貢献は非常に意識されていまして、アウトリーチに関しては、今、芸術大学の名工大でのコラボレーションについてご紹介いただきましたけれども、同様に、病院に演奏家の方たちが行って演奏し、患者さんのケアに貢献するですとか、いろいろな形で市民とのコラボレーションにも取り組んでいらっしゃるって、こうした活動は近年拡大してきた印象です。

そこは去年も配点が高かったと思います。県大も同様に、県や市町村など地域の自治体とコラボレーションしたり、県内の色々な組織と連携したり、アウトリ

一斉の活動を活発に展開されていると思います。

○ 委員

名工大のアートフルキャンパス構想は、学長の木下先生にも名工大ホームページのほうでご紹介いただいています。元々は海外に留学されたときに、普通の大学のカレッジにロダンか誰か、とても有名な人の作品に触れるような状態で置かれており、とても心が豊かになるというのを心に刻んで戻ってきて、県芸大の戸山学長とお話しされ、戸山学長もお気持ちが進んでいったというところで。

今までずっと委員をやらせていただいて、数値に縛りが出てきてしまって、後の審議で数値に縛られて、本当は評価してあげたいのに、数値を達成していないがために目標達成にはいかないということがありました。

特に芸術大学は、点数とか数値じゃないのじゃないかと。ただ、先程おっしゃられたとおり、今は途中なので、今は変更できないので、また新たな計画を立てられるときにぜひ今の御意見を踏まえてほしいと思います。

○ 委員

ありがとうございます。数値化の話は悩ましいと感じていまして、今、委員がおっしゃったように、我々としてはできるだけ実績を適切に評価したいと考えているところではありますが、他方、大学行政を巡る動きで言いますと、文科省をはじめ、評価指標の数値化は避けられない状況にあり、国立大学は、第四期中期目標・中期計画期間に入っておりますが、「第三者が検証可能な指標を設定すること」が求められております。

ただ「できました」と言ってもダメで、どのように数値化し、指標を取るかが重要になってきますけれども、検証できるような形で客観的なエビデンスを出していくことが求められていると思います。

他に御意見等ございますでしょうか。

○ 委員

思い出したのですが、大学の評価は文科省から依頼があつてやらざるを得ないですが、それに使う労力が尋常なものじゃないと。大学側も評価する側も。この労力をもっとほかのところに向ける方向性を模索してもよろしいのではないかなと思います。

○ 委員

貴重なご意見ありがとうございます。私も実感することです。ただ、国立大学

について申しますと、第四期中期目標・中期計画では、このような毎年の年度評価はやらなくてよくなりました。そういう意味では、関わる人員の負担軽減に少しは配慮されつつあるのかなという気もしております。県では、いつからこれが始まるのでしょうか。

○ 事務局

今後国会で審議されまして、再来年度から国立大学と同じやり方になる見込みではあるのですが、まだ国会の審議はこれからという形です。

国立大学法人もそうだと思いますが、毎年の評価が無くなる引き換えではないですが、中期計画に数値目標をとということが言われているところです。総務省からも愛知県に調査があったのですけれども、その際、必ず数値目標を作れるような大学ばかりではないということでご配慮を、という意見は出したのですが、結局やはり国立大学法人と同じような形になるのではないかと考えております。

毎年の評価が無くなるのは大学側でも評価をいただく側でも負担の軽減にはなると思いますが、第四期中期目標・中期計画を作る際に、仮に数値目標が義務付けられた場合、かなり議論して、適切な数値目標を作っていくという作業が必要ではないかと思っております。

○ 委員

数値目標にしにくいからこそ、芸大については、五芸大の中でも、実は愛知県立芸術大学はこれだけ優れたところがあると発掘していただければよいかなと思います。

たとえば長久手市のホームページや広報等を見ますと、「芸術の街長久手」とか、若年層が伸びている、住民の平均年齢が低い、ということを盛んにアピールしております。一方、芸術分野では音楽会でも美術展でも客の高齢化が問題となっています。そのような中で、大学が所在している市が芸術の街、若い街をアピールしてくれているのはありがたいことだと思います。しかし、県立芸大のパンフレットやホームページを見るとちょっと齟齬がある感じがします。

せっかく長久手市がこれだけアピールしてくれているのだから、芸大のほうでそれに対応するような、「これだけの評価を得ているのだ」というのを発掘していただければ良いと思います。そうすると結果的にそれが数値目標や客観的な基準に結びついていき、評価委員としても評価しやすくなると感じております。

○ 委員

大変貴重なご意見をありがとうございます。かねてから芸大の場合は、委員からご指摘いただきましたように、指標の作り方が今一つで、もう少し検討してい

ただければよかったのに、という議論がこれまでも多かったと思います。

ですから、せっかくの業績が、目標設定時に掲げられた指標と若干ミスマッチであったり、本来ならばこういう面を評価できるのに、という点を吸い上げられるような計画なり指標なりが無かったりするがゆえに評価から漏れているということを感じるところです。

そういう意味では、次回は、目標自体もそうですけれども、指標作りももう少し練ったものにしていただけると評価しやすくなるのかなと思います。先程のご説明にありましたように、毎年度の評価が無くなる代わりに数値目標も必ず設定するという方向で進むのであれば、ますます指標作りは非常に重要だと思いますので、労力もかかりますが、ぜひ法人側でもご検討いただければと思います。

○ 委員

国立大の評価なのですが、数字はもちろんなのですが、旧帝大のような全国区のところと地方大と言われる大学では評価が変わっていて、特に地方大に関しては、ステークホルダーに、いかにサービス・貢献をできたかというのと、そのアウトプットをいかに最大化するためのマネジメントができましたか、というのが大きな評価になっています。

県立大も芸術大も、ステークホルダーの定義はたくさんあるので、先生がおっしゃったように長久手の、というのもありますし、名工大でアートフルキャンパスをやっていただいているのもあります。「ステークホルダーに貢献する」という大きな目標を作って、「ステークホルダーはたくさんあります」というふうになれば、たくさんリストが出てきてもおかしくないと思います。そのための色々な努力をしましたというのを重点化すると、愛知県としての独自性も出しながら国の方針にも逆らうことなくやれるのかな、と思います。

○ 委員

見込評価に戻りますと、毎年度やっている年度評価も行いながら見込評価もダブルで準備するというので、負担が倍になるのではないかという懸念もありますが、どのような形で進めていけますでしょうか。

○ 事務局

委員がおっしゃる通り、来年度に関しては、中間評価と年度評価という形で2回分やらなければならないので、負担が増えるのは間違いないと思います。

一方で、6年間の中期目標期間が終わった時の総合評価の際には、今回中間評価で評価した内容は使って、評価できなかった2年間はプラスで評価して全体

評価としてやらなければならないのですが、全体評価自体が今回の中間評価の結果をある程度反映した形でできるものですから、そちらの手間は減ってくるのではと思います。ですから、トータルで見ればそれほど大きな負担増ではないのかなと思います。むしろ、今回中間評価をやることによって、そこで出た反省点や課題を次の中期計画や目標に生かしていけるメリットのほうが大きいのかなと感じております。

○ 委員

ご説明ありがとうございます。評価される側に立って考えますと、若干難しい点があると感じております。この3年間コロナ禍があり、これは今回の中期目標・中期計画を作った時には想定していなかった事態ですが、過去3年間にわたっていろいろな分野で、思ってもみなかったような状況で活動が停滞したり、実施できなかったこともあったと思います。

中間と言いつつ、過去3年間の分の実績をどれだけ考慮して評価するかは結構難しいなと考えております。「マスクを付けなくていい」という通知がありましたが、やっとコロナ禍の3年間で脱して元に戻ろうという時期に評価をすると、コロナの負の影響をかなり受けてきた、これまでの3年間でどのように考慮するかは少し難しいと思います。また、後半の3年間でどれだけ目標を達成できるかはコロナ次第というところもあるでしょうし、また難しいところだなと思います。

○ 事務局

この後、別紙様式ということで、資料1-2についてご説明させていただく予定でおりますが、やはり、大学のほうからも、特に留学生や留学の目標については、コロナで本当に大きな影響を受けてしまって、もちろん今後頑張るが、なかなか指標達成が難しい可能性が高いという話をされております。

資料1-2の一番最後のページの右端に、「備考欄」をつくりまして、こちらに、評価委員会でよく議論になる、自己評価をIVとした場合に、なぜIV評価なのかという理由を明記すること、指標未達が見込まれる場合はその理由と、例えば、「コロナのせいでこれはできなかったけれども、これはやりました。」というアピールポイントがあれば、こちらに書いてもらうようにしました。

また、「中期計画とはうまくかみ合わないがアピールできるポイント」というのがあれば、この備考欄に書いていただくこともできると思っております。

○ 委員

ご説明ありがとうございます。なかなか難しいですけれども、代わりにできた

ことを強調していただくということになるかと思えます。

他に御意見ございますでしょうか。

それでは、この実施要領（案）をもちまして、愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間の実績見込評価実施要領としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは、これを愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間の業務実績見込評価実施要領とし、法人にも送付いたします。

なお、文言、表現の修正につきましては私と事務局に御一任いただきたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○ 事務局

御意見を踏まえまして、先程ご説明いただきました備考欄に特殊事情やアピールポイントを積極的に書くように、ということで、私共のほうから法人側に伝えさせていただきます。

○ 委員

ぜひお願いいたします。それでは、本日予定しておりました議題は、全て終了いたしました。

私のほうから一点お願いがございます。今回、2種類報告書が準備されることになると思いますが、従来、事前にご説明に来ていただくときにお配りいただく資料、その後修正を反映した資料、当日配布資料と、同じ報告書案や資料が何バージョンも配布されており、後で資料を振り返る時にどちらが最新版なのかなかなか分からないです。

バージョンナンバーを付けていただくか、あるいは日付を付けていただけると、どれが最新版なのか把握しやすくてありがたいと思いますので、ご配慮いただけますか。

○ 事務局

かしこまりました。申し訳ございません。

○ 委員

だいたい4、5バージョンあって、どちらが先だったか後で見返すと分からなくなってしまうので。昨年どうだったか、を委員会の場で見返すこともあろうかと思しますので、最新バージョンが分かるような形で記載してください。

他に御意見・御質問等ございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

長時間にわたり、円滑な運営に御協力くださいまして誠にありがとうございました。

以上